

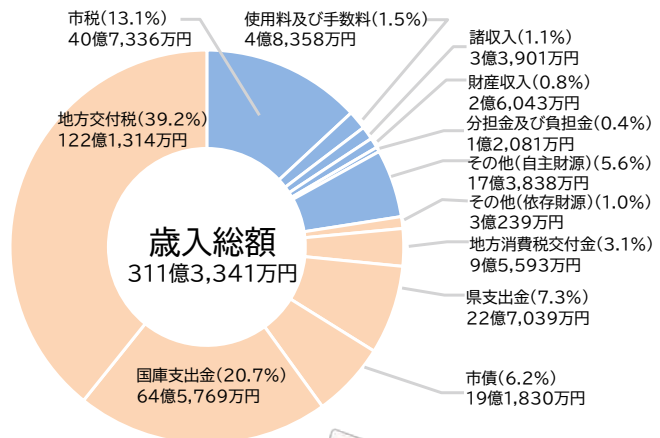
奄美市の財政状況 (令和5年度予算)

※構成比については、四捨五入の関係で合計等と一致しない場合があります。

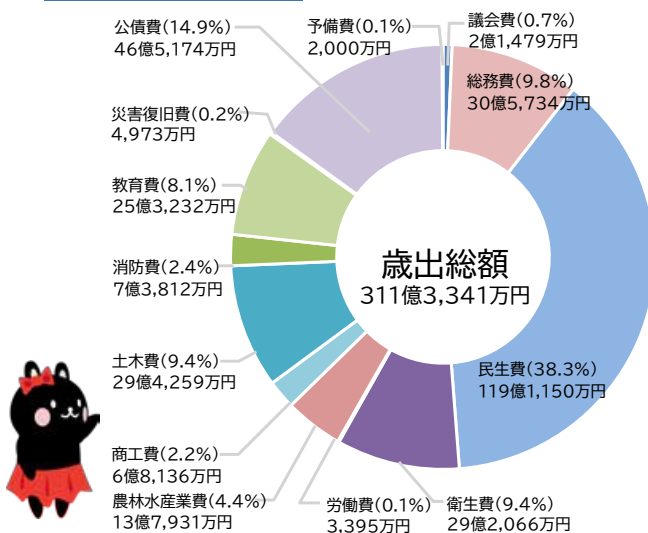
一般会計・特別会計当初予算

会計名	予算額	増減率(%)
一般会計	311億 3,341万円	△0.9
特別会計		
国民健康保険	51億 2,022万円	△5.2
国民健康保険直営診療施設勘定	3億 1,289万円	11.6
後期高齢者医療	5億 8,662万円	0.2
介護保険事業	53億 6,514万円	0.4
訪問看護	3,418万円	△11.3
と畜場	7億 8,348万円	181.4
交通災害共済	553万円	3.6
特別会計合計	122億 806万円	2.3
一般・特別会計合計	433億 4,146万円	0.0

一般会計予算 歳入



一般会計予算 歳出



自主財源 : 22.5%
依存財源 : 77.5%

- 総務費:** 住民登録、統計調査、課税徴収、選挙、庁舎の管理等、市の総合的な事務に使う経費
- 民生費:** 高齢者福祉や子どもの保育費、生活保護等、市民福祉全般の事務・事業に使う経費
- 衛生費:** 保健衛生やごみ処理等、健康で安全な生活のために使う経費
- 農林水産業費:** 農林業、水産業の振興のための経費
- 商工費:** 大島紬や観光振興等、商工業の振興のための経費
- 土木費:** 道路、港湾、市営住宅等の整備や維持管理に使う経費
- 消防費:** 消防本部や消防団等の消防・救急活動のための経費
- 教育費:** 小中学校の運営・整備や公民館活動等、教育全般の事務・事業に使う経費
- 公債費:** 過去に借り入れた債務の支払にあてる経費

水道事業会計当初予算

1 収益的収入及び支出 (収入)

区分	予算額	増減率(%)
営業収益	9億 4,776万円	△0.6
営業外収益	2億 8,009万円	0.6
合計	12億 2,785万円	△0.3

(支出)

区分	予算額	増減率(%)
営業費用	11億 6,374万円	△0.4
営業外費用	4,299万円	1.6
予備費	500万円	0.0
合計	12億 1,173万円	△0.3

2 資本的収入及び支出 (収入)

区分	予算額	増減率(%)
企業債	2億 8,520万円	△10.7
工事負担金	900万円	皆増
国庫補助金	3,000万円	皆増
他会計出資金	6,310万円	△71.4
合計	3億 8,730万円	△28.2

(支出)

区分	予算額	増減率(%)
建設改良費	6億 6,446万円	△10.7
企業債償還金	1億 9,775万円	7.0
投資	3億 0万円	50.0
合計	11億 6,221万円	3.0

下水道事業会計当初予算

1 収益的収入及び支出 (収入)

区分	予算額	増減率(%)
営業収益	12億 2,885万円	121.9
営業外収益	5億 1,648万円	△54.7
合計	17億 4,533万円	3.1

(支出)

区分	予算額	増減率(%)
営業費用	13億 8,736万円	△0.2
営業外費用	6,693万円	△18.7
特別損失	6万円	皆増
予備費	80万円	0.0
合計	14億 5,515万円	△1.2

2 資本的収入及び支出 (収入)

区分	予算額	増減率(%)
企業債	4億 9,640万円	△12.3
補助金	3億 3,200万円	8.5
負担金等	666万円	△45.5
合計	8億 3,506万円	△5.6

(支出)

区分	予算額	増減率(%)
建設改良費	6億 7,008万円	△0.3
企業債償還金	8億 9,880万円	△2.8
合計	15億 6,888万円	△1.7

奄美市のあゆみ

平成18年3月20日の奄美市誕生から、これまでのあゆみを写真と年表で振り返ります。



平成18年
奄美市誕生
2006年

▼平成18年(2006年)

- 3/20 合併により「奄美市」誕生 ①
- 6月 大浜「快水浴場百選」(環境省)に選ばれる
- 7月 皆既日食音楽祭 ②
- 8月 西宮市と友好都市提携
- 12月 「タラソ奄美の竜宮」オープン ③

▼平成19年(2007年)

- 5月 黒糖焼酎の日制定、あまみエフエム開局 ④
- 6月 NHK のど自慢 ⑤
- 12月 「旧安田家住宅主屋」・「園家住宅主屋」が国登録有形文化財となる
一集落1ブランド初認定

平成20年
2008年

▼平成20年(2008年)

- 4月 有良汚泥再生処理センター竣工 ⑥
- 8月 地上デジタル放送本放送開始
- 10月 名瀬港臨港道路「長浜本線」開通

▼平成21年(2009年)

- 2月 第1回奄美桜マラソン大会 ⑦
- 赤木名城跡が国指定文化財となる
- 4月 鹿児島県立奄美図書館開館
- 7月 皆既日食 ⑧
- 12月 朝山市長就任(12月1日) ⑨

▼平成22年(2010年)

- 4月 「あった結い交流館」落成
- 7月 市民憲章の碑除幕式
- 8月 小湊フガネク遺跡が国指定文化財となる
- 10月 奄美地方豪雨災害発生(10月20日) ▼



- 11月 大やんご祭り(やんご生誕100周年祭)

▼平成23年(2011年)

- 6月 空想科学株式会社との立地協定
- 9月 奄美大島北部豪雨災害(9月25日)

▼平成24年(2012年)

- 4月 ICTプラザかざり開所式
AiAiひろば供用開始 ⑩
- 5月 日本各地で金環日食、奄美では部分日食

平成25年
2013年

▼平成25年(2013年) 日本復帰60周年

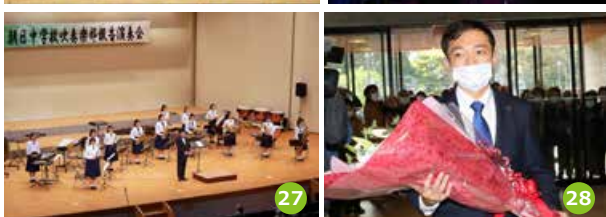
- 1月 ご当地ナンバープレート(原付・自動二輪)交付
- 3月 太陽光発電所「あまみティダ発電所」完成
- 4月 公式キャラクター「コクトくん」に辞令交付
「奄美市ひと・もの交流プラザ」オープン
- 11月 奄美群島日本復帰60周年記念式典
- 12月 朝山市長再選(2期目)
奄美群島日本復帰60周年「復帰の灯」 ⑪

▼平成26年(2014年)

- 1月 大島高校野球部が春の甲子園出場決定 ⑫
- 3月 住用・笠利総合支所 新庁舎開庁式 ⑬
- 5月 名瀬港に大型客船「コスダビクトリア」初寄港
- 6月 県立大島病院救命救急センター開所
- 7月 バニラエア奄美-成田線就航 ⑭
- 11月 ご当地「奄美」ナンバー(自動車)スタート

▼平成27年(2015年)

- 3月 国道58号網野子バイパス開通
- 5月 「カレドニアスカイ」名瀬港に初寄港
- 9月 奄美市市政施行10周年記念切手販売
- 10月 国民文化祭かごしま2015(10/31~11/8)



平成30年
2018年

元号が
「令和」へ
2019年

世界自然
遺産登録
2021年

▼平成 28 年 (2016 年) 奄美市施行 10 周年

- 1 月 名瀬で 115 年ぶりとなる雪が観測される
- 3 月 奄美市市制 10 周年記念式典 **15**
奄美市名瀬中央公民館閉館
- 5 月 本庁舎の一部が港町仮庁舎へ移転
- 8 月 小湊フガネク遺跡出土品が国指定重要文化財となる
- 12 月 「奄美ドクターヘリ」 運航開始

▼平成 29 年 (2017 年)

- 2 月 NHK 総合プラタメリ 奄美大島で収録
- 3 月 奄美群島国立公園誕生
パニウ・エア奄美 - 関西線就航
- 7 月 島尾敏雄生誕 100 周年記念祭
- 9 月 あやまる展望デッキ完成
- 12 月 朝山市長再選 (3 期目)

▼平成 30 年 (2018 年) 日本復帰 65 周年

- 2 月 海岸に漂着油が確認され回収作業が行われる
- 3 月 フェリー波之上奄美 - 屋久島航路就航
- 5 月 大河ドラマ「西郷どん」で奄美大島が舞台に
- 6 月 都市計画道路「未広港線」供用開始
- 7 月 奄美空港ターミナルビル増改築工事落成式
- 8 月 スカイマーク奄美大島 - 鹿児島線就航
奄美市給食センター開所式
- 12 月 日本復帰 65 周年日本復帰記念の日のつどい **16**

▼平成 31 年 (令和元年 2019 年)

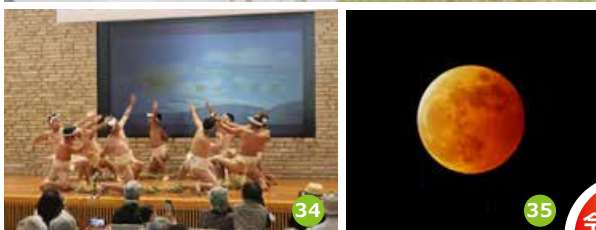
- 2 月 奄美 de アート国際フェスティバル **17**
奄美市役所新庁舎開庁式 **18**
- 3 月 陸上自衛隊奄美駐屯地開設・ブルーインパルス飛行 **19**
- 4 月 新元号「令和」発表 (5/1 ~ 元号が令和へ)
- 8/18 第 58 回全国教職員相撲選手権大会
- 8/24 奄美博物館リニューアルオープン **20**
- 10/1 ピーチ・アビエーション運航開始
- 10/31 大型客船「ウエステルダム」名瀬港に初寄港

▼令和 2 年 (2020 年)

- 1 月 住民票等コンビニ交付開始
- 2/22-23 危機的な状況にある言語・方言サミット
- 9 月 台風 10 号が接近 多くの住民が避難
【コロナ禍の影響により、オリンピック聖火リレー、各地区の夏祭り、かごしま国体、市民文化祭、市民体育祭など多くの行事が中止または延期に】

▼令和 3 年 (2021 年)

- 3/20 奄美市合併 15 周年
合併 15 周年記念 NHK のど自慢 **21**
- 4/27 オリンピック聖火リレー開催 **22**
- 5/10 世界自然遺産の登録勧告を受ける
- 7/26 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」
の世界自然遺産登録が正式に決定 **23**
- 7-8 月 東京オリンピック開催
- 9 月 本庁舎グランドオープン **24**
- 10/2 奄美市市民交流センター落成式
- 10/2 奄美市市政 15 周年記念式典 **25**
- 10/23 世界自然遺産登録記念式典
・世界自然遺産登録記念祝賀イベント **26**
- 10/23 朝日中学校吹奏楽部が全日本吹奏楽コンクールで
銀賞受賞 (11/6 報告演奏会 **27**)
- 11/27 5 市町村連携花火
- 12/1 安田市長就任 **28**



▼令和4年(2022年)

- 1/5 漁協・青果市場初セリ(2年ぶり)
- 1/6 新型コロナ感染拡大により
「奄美大島コロナ警戒レベル」5へ引き上げ
- 1/28 大島高校甲子園出場決定 **29**
- 3/19 あやまる岬サイクル列車リニュアル **30**
- 3/23 大島高校野球部選抜大会出場(VS.明秀日立[茨城])
- 3/24 海洋展示館リニュアルオープン **31**
- 3/27 宮古崎トンネル開通式
- 4/4 地域おこし協力隊就任
- 5月 第63回奄美群島市町村議会議員大会(3年ぶり開催)
- 6/19 大島支部消防操法大会(奄美市で22年ぶり開催) **32**
- 7/26 世界遺産センターオープン **33**
- 7/26 世界自然遺産登録1周年記念イベント
- 8/1 諏訪副市長初登庁
- 8/3 新型コロナ感染拡大により
「奄美大島コロナ警戒レベル」再び5へ引き上げ
- 8/4 新型コロナ感染拡大により舟こぎ競争中止
- 8/5 奄美市まつり「花火大会」(3年ぶり)
※規模縮小のためパレード・八月踊りは開催なし
- 9/19 台風14号接近
- 9/20 奄美大島食肉センター新築工事起工式
- 10/8・9 県体バドミントン競技開催
- 10/16 県民文化フェスタinあまみ2022(奄美群島で初開催)
- 10/30 奄美パーク開園20周年 **34**
- 11/8 やんご祭り
- 11/8 皆既月食・天王星食 **35**
- 12/25 日本復帰記念の日のつどい(復帰69周年)

令和5年
2023年

令和5年(2023年)日本復帰70周年

- 1/21 鹿児島大学防災シンポジウム
- 2/5 スポーツイベント「つなGO奄美大島」開催 **36**
- 2/5 地女連名瀬支部結成100周年記念式典 **37**
- 2/5 自衛隊奄美駐屯地4周年記念イベント **38**
- 2/10 名瀬小学校創立150周年記念式典 **39**
- 2/25 ほこらしゃ奄美音楽祭
- 3/11 世界自然遺産登録一周年記念シンポジウム



参考資料：奄美群島の概況【鹿児島県】、奄美市だより

奄美の歴史概要

奄美群島の歴史は、複雑な歩みをたどります。15世紀中頃から「琉球国」（現在の沖縄県）の統治下に入り、慶長14年(1609)には薩摩藩が琉球国に侵攻した後は、「薩摩藩」（現在の鹿児島県）の統治下となります。その際、奄美群島は琉球国領のまま、実際には琉球国から切り離されて薩摩藩の直接支配が行われるという複雑な行政統治が行われています。

明治元年(1866)から「鹿児島県」となり、近代国家の一員として編成されていきますが、太平洋戦争の敗戦後は「米軍占領政府」の統治下となり、8年間にわたり日本から切り離され、行政分離された苦難の歴史も経験してきました。

先史時代（奄美世）

奄美群島の先史時代は、旧石器時代遺跡が奄美市笠利町から発見されていて、約3万年前から人びとが暮らしていた事実がわかります。



喜子川遺跡
(奄美市笠利町)の礫群

約10,000年前に氷河期（最終氷期）が終わると、気候は温暖化しはじめ、約7,000年前から縄文時代の遺跡が認められるようになります。

3,000年前頃から、集落というものが形成されるようになり、宇宿貝塚・宇宿小学校遺跡（奄美市笠利町）、城サモト遺跡（奄美市住用町）、塔原遺跡（天城町）、住吉貝塚（知名町）等、奄美群島の各地で集落遺跡が確認されています。

弥生時代に波及した稲作農耕文化は、奄美・沖縄地域には定着せず、本格的に稲作農耕が開始されるのは平安時代後半頃頃からとなります。ゴホウラやイモガイなどの南海産大型貝類が交易品として運び出され、本土地域の政治的権力者たちが身につける装身具の材料として使われました。

『日本書紀』、『続日本紀』には、7～8世紀にかけて、律令国家による地方統治政策が、薩南諸島を中心に展開されていた様子が記載されています。日本歴史の舞台に、奄美群島が鮮やかに登場したのです。

昭和59年(1984)、福岡県大宰府跡の発掘調査において、「奄美嶋」と記された木簡が発見されました。「奄美嶋」とは、奄美大島であると考えられています。一緒に沖永良部島とも推定されている「伊藍嶋」と記された木簡も出土しています。いずれも8世紀前半に位置づけられるものです。大宰府へ貢納された南方物産に付けられた荷札かもしれません。



「奄美嶋」木簡複製

当時、奄美群島をはじめとする南西諸島は、夜光貝や赤木など南方物産の産地として



国重要文化財・夜光貝匙
(小湊フワガネク遺跡)

知られていました。古墳時代終末から、奄美大島では小湊フワガネク遺跡（奄美市名瀬）、土盛マツノト遺跡（奄美市笠利町）など、夜光貝の貝殻を加工のために集積させた「夜光貝大量出土遺跡」と呼ばれる遺跡が営まれ、交易活動が行われていました。

中世（アジ世）

9～10世紀には文献史料から姿を消していた南西諸島の島々は、10世紀終末、『日本紀略』という史料において「キカイガシマ」としてふたたび姿を現します。以後、13世紀頃まで文献史料に散見されるようになります。

その11～13世紀頃には、喜界島には九州から南漸してきた人びとが築いた「城久遺跡」が、徳之島には窯業生産遺跡の「カムイヤキ陶器窯跡」が営まれました。この時代に農耕文化がもたらされ、鉄器文化も広く波及しはじめました。



カムイヤキ（奄美博物館所蔵）

11世紀代になると、徳之島で生産されたカムイヤキ（陶器）が、農耕文化と鉄器文化を伴いながら沖縄諸島、さらには先島諸島まで波及し、琉球史におけるいわゆる「グスク時代」の幕開けとなりました。

琉球国統治時代（那覇世）

沖縄島で、13世紀後半から独自の琉元貿易が開始されると、14世紀代には各地に城塞型グスクが出現し、その政治的社會は北山・中山・南山の三勢力（三山）に成長していきました。明が成立すると三山による朝貢貿易が開始され、その直後に「琉球国」が誕生しました。

琉球国は、奄美群島にたびたび軍事侵攻を行い、15世紀中頃から奄美群島を統治下に加えしました。その後、文明9年(1477)から第二尚氏王統に代わり、中央集権体制が確立されてくると、琉球国の行政機構が奄美群島にも適用されるようになります。

「間切」と呼ばれる行政単位が導入され、間切統治の役人のほか、ノロとよばれる公的神女に重要な職務が与えられていました。奄美群島では、各集落単位でノロが配置されていて、各島にはノロを統括する「大あむ」と呼ばれる神女が二人配置されていたと考えられています。



大熊集落のノロ祭祀



ノロ祭祀に使われる神扇

薩摩藩統治時代（大和世）

江戸時代開始直後の慶長14年（1609）、薩摩藩は琉球国へ軍事侵攻して、異国である琉球国を支配下に置きました。奄美群島は琉球国から割譲されましたが、対外的には琉球国領を装いながら薩摩藩が直接統治しました。そうした行政制度の変化に伴い、ノロの継承も琉球国から切り離され、特定の家系に代々継承されて守られるようになりました。

奄美群島は、近世国家体制（幕藩体制）に組み込まれていきます。琉球国の間切制度は引き継がれましたが、元和9年（1623）の「大島置目条々」発令以後、その行政機構は変更されていきます。最初は米による税収確保が行われていましたが、延享4年（1747）の「換糖上納令」（米を黒糖に換算して納める）発令以後は、稲作からサトウキビ栽培へ転換が進行し、やがてプランテーション化が奄美群島全域で展開していくようになりました。薩摩藩の財政再建に際し、奄美群島の黒糖政策が重要施策となり、「黒糖地獄」と呼ばれる時代が到来したのです。

幕末には、遠島刑を命じられた薩摩藩の上級藩士・名越左源太が名瀬間切の小宿村に暮らし、奄美大島の様子を挿絵入りで詳細に記録した『南島雑話』をまとめています。



『南島雑話』

近代（明治・大正・昭和時代）

享和元年（1801）に仮屋が名瀬の伊津部に移転されると、官公庁の変遷に伴いながら寄留商人を中心に名瀬の街の形成が始まります。明治4年（1871）の廃藩置県後、薩摩藩は「鹿児島県」となり、明治8年（1875）に名瀬の伊津部仮屋が廃止、新たに「大島大支庁」が名瀬金久村に設置され、奄美群島各島にも支庁が設置されました。

明治時代も、砂糖利権は鹿児島県に独占された状態が続いていました。その独占売買のため、「大島商社」「南島興産商社」などが組織され、島民は債務増大に苦しんできました。しかし、サトウキビ農業が経済的に厳しいからこそ、人びとは、大島紬、カツオ漁、林業、百合根などの新しい産業の開発に取り組み、活路を見出していました。

名瀬の街は砂糖交易で繁栄し、アジア海域における拠点の港湾都市のひとつとして飛躍的發展を遂げていきました。鹿児島県下第2位の規模を誇る「ヤング（屋仁川）」の飲食店街も、この時期から営まれてきた100年以上の歴史があります。

明治時代終末には、早稲田大学商学科を卒業した青年実業家・林為良（徳之島花徳出身）が、「大島電気株式会社」を設立して、奄美群島における電化が始まります。住用川で水力発電事業にも取り組み、大正8年（1919）には、発電所・ダムが完成し、電力供給が開始されました。

奄美の歴史に関連する主な年表

先史時代	<ul style="list-style-type: none"> ○約 30,000 年前、人類活動が始まる ○7,000 年前頃から縄文時代遺跡 ○約 2,500 年頃から定住的な集落形成 ○弥生時代遺跡が営まれるが、稲作農耕文化は定着しない ○小湊フワガネク遺跡の「夜光貝大量出土遺跡」、夜光貝匙等の貝製品生産 ○律令国家の地方統治政策が波及、南島人朝貢 ○大宰府跡から「奄美嶋」木簡出土
中世	<ul style="list-style-type: none"> ○九州西海岸で奄美島人襲撃事件 ○夜光貝の国産「螺鈿」が最盛期 ○平泉の中尊寺金色堂（12 世紀）建立 ○城久遺跡（喜界町）が最盛期 ○徳之島で窯業生産（カムイヤキ陶器窯跡）が行われる ○11 世紀代から稲作農耕が開始 ○赤木名城跡などの城郭遺跡が構築
琉球国統治時代	<ul style="list-style-type: none"> ○尚巴志が三山を統一、琉球国が誕生 ○尚徳王、喜界島に侵攻 ○15 世紀中頃、奄美群島は琉球国の統治下に ○伊是名島生まれの尚円による第二尚氏王統始まる
薩摩藩統治時代	<ul style="list-style-type: none"> ○慶長 14 年（1609）、薩摩藩が琉球国に侵攻 ○奄美群島は琉球国から分離、薩摩藩の直轄領となる ○笠間間切の笠間村に仮屋設置 ○寛永 12 年（1635）頃、名瀬間切の大熊村に仮屋移転 ○笠間間切の赤木名村に仮屋移転、以後、大熊村と赤木名村を交互移転する ○「大島置目之条々」定められる ○「換糖上納令」発令 ○正徳 3 年（1713）、第一次定式買入制度 ○安永 6 年（1777）、第一次惣買入制度 ○天明 7 年（1787）、第二次定式買入制度 ○文政 13 年（1830）、第二次惣買入制度 ○名瀬間切の伊津部村に仮屋移転 ○名越左源太、名瀬間切小宿村に暮らす ○ペリー、浦賀に来航 ○薩摩藩、「大島古図」作成 ○西郷隆盛、名瀬間切の龍郷村に潜伏
近代	<ul style="list-style-type: none"> ○薩摩藩「大島計画」で奄美大島 4 箇所に白糖製造工場を建設、稼働 ○「廃藩置県」で奄美群島は鹿児島県に ○奄美群島「地租改正」は明治 11 年（1878）から実施 ○砂糖専売の特殊会社「大島商社」設立 ○砂糖自由売買運動（勝手世騒動） ○明治 11 年（1878）、大島商社が解体 ○明治 21 年（1888）、「南島興産商社」設立 ○高利負債償却、農事改良、倹約の「三方法運動」で砂糖専売に対抗 ○笹森儀助が大島島司として就任 ○林為良が「大島電気株式会社」設立 ○大正8年（1919）、大島電気株式会社による住用川の水力発電所とダム完成 ○昭和 2 年（1927）、昭和天皇行幸
米軍占領統治時代	5 ページを参照

市章・市木・市花等

※「奄美市民歌」は3ページに掲載しています。

奄美市の市章

奄美市のインシヤルであるAをモチーフとし、奄美の豊かな自然と共生する市民の姿を表現しました。赤い丸は奄美の恵みの太陽を表しています。



市民憲章（平成19年3月20日制定）

奄美市民憲章

誇りある奄美市民の幸福と前進のために

- わたしたち奄美市民は、
きまりを守り住みよいまちをつくります。
- わたしたち奄美市民は、
助け合いぬくもりのあるまちをつくります。
- わたしたち奄美市民は、
健康で明るいまちをつくります。
- わたしたち奄美市民は、
教養を高め伸びゆくまちをつくります。
- わたしたち奄美市民は、
よく働き豊かなまちをつくります。

奄美市公式キャラクター

奄美市の公式キャラクターは、アマミノクロウサギの妖精、コクトくんです。普段は交通安全と野生動植物の保護を訴えながら、お友達のロビンちゃんといっしょに奄美の山で静かに暮らしています。コクトくんの好物は黒糖を使ったスイーツ、黒糖焼酎。趣味は三味線です。



奄美市の市木・市花

（平成19年3月20日制定）

●リュウキュウマツ（市木）

琉球列島の固有種です。大木は奄美に多く、市内には琉球列島屈指の大木もあります。奄美の山の黒っぽい緑を形成している木で、木工芸品なども近年注目されています。



●ガジュマル（市木）

木登りやブランコなど子どもの遊び場として、また木陰は住民の憩いの場として古くから市民に親しみのある木です。奄美の民話に出てくる「ケンムン」の棲家とも言われ、奄美の象徴的な木でもあります。



●シャリンバイ（市花）

在来種で、大島紬の染料にも使われるなど、伝統産業を支えてきた花です。街路にも植栽され、身近に市民に親しまれています。



●ハイビスカス（市花）

ハイビスカスはフヨウ属の総称です。一般的にはブッソウゲのイメージが市民の間で定着しています。



●ヒカゲヘゴ（その他植物）

花木のほかに、特殊な植物を市のシンボルに加えることにより、奄美市の植物の多様性、豊富さを内外に示すことができます。ヒカゲヘゴは、古代のジャングルを連想させ、奄美の亜熱帯の深い森を最もよく象徴している植物です。



姉妹都市・友好都市

●〈姉妹都市〉アメリカテキサス州ナカドゥチェス市 / City of Nacogdoches

ナカドゥチェス市と旧名瀬市は、ステファン・F オースチン大学と奄美看護福祉専門学校が姉妹校盟約を結ぶのを契機に、両市民が教育・文化・経済等幅広い分野の交流を深めるため、平成7年4月26日に姉妹都市盟約を締結しました。平成17年4月には、市町村合併後の奄美市においても姉妹都市盟約を継続する調印を交わし、現在に至っています。

●〈友好都市〉兵庫県西宮市

西宮市と旧名瀬市の交流は、故キクチ武正医師たちが医療過疎に悩む奄美の島々を昭和30年から10年余にわたって巡回し、診療奉仕活動を行ったのがきっかけになっています。その後、中学生の交歓行事などで友好気運が高まり、昭和56年10月31日、友好都市提携調印を行いました。奄美市誕生後の平成18年8月に、新市として友好都市提携調印を行い、現在に至っています。

●〈友好都市〉大阪府豊中市

関西には奄美出身者も多く、大阪国際空港は便利で昔から馴染みも深いことから、観光PRや物産展開催等の相互交流は両市にとって大きなメリットになるため、平成24年2月6日に「空港で結ぶ友好都市連携に関する協定」を締結しました。

●〈交流事業〉長野県小川村

平成10年から小学6年生を対象に奄美市住用町（旧住用村）と長野県小川村の交流が始まりました。この事業は、自然環境・生活環境の異なる地域で体験活動や文化の交流を通して、生活様式・習慣・文化等の違いや良さを見直し、相互のまちの発展を担う青少年を育成することを目的に行われています。

●〈交流事業〉群馬県みなかみ町

群馬県みなかみ町と旧笠利町は、平成13年度から青少年の交流事業を行っています。夏の時期には、みなかみ町の小学生を受け入れ、冬の時期には、笠利町の小学生を派遣しています。自然環境・生活環境の異なる地域で、体験活動を通して、生活様式、習慣、文化等の違いや良さを見直し、相互のまちの発展を担う青少年の育成に貢献しています。

指定文化財一覧

国指定文化財（奄美市関係分）

●天然記念物	所在地	指定年月日
アマミノクロウサギ（特）	奄美大島・徳之島	S38.7.4
ルリカケス	奄美大島・加計呂麻島・請島	T10.3.3
神屋・湯湾岳	住用町・宇検村・大和村	S43.11.8
アカヒゲ	奄美大島・徳之島	S45.1.23
オカヤドカリ	南西諸島	S45.11.12
オトラツグミ	奄美大島	S46.5.19
カラスバト	鹿児島県	S46.5.19
オーソンオオアカガラ	奄美大島	S46.5.19
トゲネズミ（アマミトゲネズミ）	奄美大島・徳之島	S47.5.15
ケナガネズミ	奄美大島・徳之島	S47.5.15

●史跡

宇宿貝塚	笠利町宇宿	S61.10.7
赤木名城跡	笠利町里	H21.2.12
小湊フガネク遺跡	名瀬小湊	H22.8.5

●重要文化財（美術工芸品（考古資料））

小湊フガネク遺跡出土品	奄美市立奄美博物館	H28.8.17
-------------	-----------	----------

●重要文化財（建造物）

泉家住宅	笠利町宇宿	H6.7.12
------	-------	---------

●登録有形文化財

旧安田家住宅主屋	笠利町用安	H19.12.5
園家住宅主屋	笠利町用安	H19.12.5

県指定文化財（奄美市関係分）

●天然記念物

イシカワガエル	奄美大島	H15.4.22
イボイモリ	奄美大島・徳之島	H15.4.22
オットンガエル	奄美大島 及び加計呂麻島	H17.4.19
アマミハナサキガエル	奄美大島・徳之島	H23.4.19

●史跡

城間トフル墓群	笠利町万屋(城間集落)	H5.3.24
---------	-------------	---------

●無形民俗文化財

節田マンカイ	笠利町節田	H20.4.22
佐仁の八月踊り	笠利町佐仁	H23.4.19

●有形民俗文化財

奄美のノ関係資料	笠利町・名瀬・宇検村・瀬戸内町・大和村	H15.4.22 (大和村追加指定：H18.4.21)
----------	---------------------	--------------------------------

奄美市指定文化財一覧

●名瀬地区 13件

所在地	指定年月日	種別
根瀬部地区自生タイオンヤマトツジ	名瀬根瀬部	S45.3.3 天然記念物
有盛神社の石造弁才天像	名瀬浦上	S47.3.2 有形文化財（彫刻）
有盛神社境内の森林	名瀬浦上	S47.3.2 天然記念物
小湊厳島神社の木造弁才天坐像及び黒漆塗り厨子	名瀬小湊	S47.3.2 有形文化財（彫刻）
小湊厳島神社の石灯籠及び手水鉢	名瀬小湊	S47.3.2 有形民俗文化財
朝仁貝塚	名瀬朝仁町	S45.3.3 史跡
小湊フガネク遺跡群	名瀬小湊	H14.3.22 史跡
名瀬小学校敷地内の石段	名瀬永田町	H25.10.28 史跡
有良・厳島神社の石祠及び神体恵比寿像	名瀬有良	S59.11.20 有形文化財（彫刻）
浦上ノ祭祀具	奄美市立奄美博物館	S60.11.30 有形民俗文化財
南島雑話（写本5冊）	奄美市立奄美博物館	H3.5.22 有形文化財（古文書）
大熊・竜王神社		
観音堂石造観音坐像及び石造弁才天坐像	名瀬大熊	H10.9.30 有形文化財（彫刻）
奄美博物館所蔵・奄美群島日本復帰関係資料	奄美市立奄美博物館	H16.5.22 有形文化財（歴史）

●住用地区 6件

マンガローブ群落	住用町石原	H4.9.1 天然記念物
モダ目自生地	住用町東仲間	H4.9.1 天然記念物
サモト遺跡	住用町城	H4.9.1 史跡
石像	住用町西仲間	S47.8.20 有形文化財（彫刻）
コムツキ踊り	住用町市	H4.9.1 無形民俗文化財
ソオ踊り	住用町西仲間	H4.9.1 無形民俗文化財

●笠利地区 20件

土浜ヤーヤ遺跡	笠利町土浜	S46.9.1 史跡
宇宿高又遺跡	笠利町宇宿	S51.12.25 史跡
アナバトフル	笠利町手花部	S46.9.1 史跡
辺留城古墓	笠利町笠利	S46.9.1 史跡
笠利大島奉行所跡	笠利町笠利	S46.9.1 史跡
津代古戦場跡	笠利町手花部	S46.9.1 史跡
大島仮屋跡	笠利町里	S46.9.1 史跡
赤木名観音寺跡	笠利町里	S46.9.1 史跡
アマンデー	笠利町節田	S46.9.1 名勝
園家の庭園	笠利町用安	S46.9.1 名勝
手花部メヒルギ群落	笠利町手花部	S46.9.1 天然記念物
土盛子だき石	笠利町宇宿(土盛集落)	S46.9.1 天然記念物
大島代官記写本	笠利町外金久	S46.9.1 有形文化財（古文書）
永代大雑書	笠利町里	S46.9.1 有形文化財（古文書）
笠利村教育資料	笠利町笠利	S46.9.1 有形文化財（歴史）
前島友庵の墓地	笠利町里	S46.9.1 有形文化財（歴史）
手花部の墓石	笠利町手花部	S46.9.1 有形文化財（歴史）
弁財天（蒲生神社）	笠利町屋仁	S46.9.1 有形文化財（彫刻）
宇宿稲すり踊り	笠利町・名瀬・宇検村・瀬戸内町・大和村	S46.9.1 無形民俗文化財
用シユンカネクワ	笠利町用	S52.7.11 無形民俗文化財

歴代市長・教育長・議長等 (令和5年4月1日時点) ※敬称略

●歴代市長

初代 平田 隆義	H18.4.23 ~ H21.11.30
2-4代 朝山 毅	H21.12.1 ~ R3.11.30
5代 安田 壮平	R3.12.1 ~ R7.11.30

●歴代副市長

初代 朝山 毅	H18.6.3 ~ H20.4.30
初代 濱田 龍太郎	H18.6.3 ~ H22.3.31
2代 福山 敏裕	H22.4.1 ~ H30.3.31
3代 東 美佐夫	H30.4.1 ~ R4.3.31
4代 諏訪 哲郎	R4.8.1 ~ R8.7.31

●歴代教育長

初代 窪田 能久	H18.3.20 ~ H18.6.2
2代 徳永 昭雄	H18.6.3 ~ H22.6.2
3代 坂元 洋三	H22.6.3 ~ H26.6.2
4-5代 要田 憲雄	H26.6.3 ~ R3.6.2
6代 村田 達治	R3.6.3 ~ R6.6.2

●歴代議長

初代 前田 幸男	H18.3.24 ~ H19.11.19
2代 伊東 隆吉	H19.11.29 ~ H21.11.27
3代 世門 光	H21.11.27 ~ H23.11.19
4代 向井 俊夫	H23.11.25 ~ H25.12.10
5代 竹田 光一	H25.12.10 ~ H27.11.19
6代 竹山 耕平	H27.11.25 ~ H29.12.8

7代 師玉 敏代	H29.12.8 ~ R1.11.19
8代 与 勝広	R1.11.25 ~ R3.12.8
9代 西 公郎	R3.12.8 ~ R5.11.19

●歴代副議長

初代 奈良 博光	H18.3.24 ~ H19.11.19
2代 叶 幸與	H19.11.29 ~ H21.11.27
3代 与 勝広	H21.11.27 ~ H23.11.19
4代 平川 久嘉	H23.11.25 ~ H25.12.10
5代 大迫 勝史	H25.12.10 ~ H27.11.19
6代 師玉 敏代	H27.11.25 ~ H29.12.8
7代 戸内 恭次	H29.12.8 ~ R1.11.19
8代 奥 輝人	R1.11.25 ~ R3.12.8
9代 橋口 耕太郎	R3.12.8 ~ R5.11.19

Map & Data (奄美市の地図と主なデータ)



大浜海浜公園

※件数等は年間の合計数です。

火災件数

9件

R4.1～R4.12月

交通事故

63件

R3.1～R3.12月

犯罪発生

133

検挙 99件
R3.1～R3.12月

乗用車保有数

20,902台

1世帯あたり 1.07台
R4.3月末現在

消防職員数

85人

職員1人当たり
市民数 472人

医療施設数

48施設

市民 853人に1施設
R3.10.1現在

救急出動

2,787回

1日平均 7.64回
R4.1～R4.12月

医師数

266人

歯科医師等を含む
H30時点



おがみ山からの眺め

大浜海浜公園
Ohama Seaside Park
奄美博物館
Amami Museum
奄美海洋展示館
Amami Ocean Exhibition
タラソ奄美の竜宮
Thalasso Amami no Ryugu

奄美博物館
Amami Museum

名瀬新港

朝仁

田中一村終焉の家
Isson Tnaka Dwelling

おがみ山公園
Ogamiyama Park

本場奄美大島紬泥染公園
Amami Oshima Dyed Mud Park

金作原
Kinsakubaru Forest

フナギョの滝
Funangyo Waterfall

モダマ自生地
Modama Habitat

木工工芸 みどりの里
(奄美市木工工芸センター)
Amami Woodworking Craft Center

タンギョの滝
(神屋タンギョ)
Tangyo Falls

内海公園
Uchiumi Park

内海公園バンガロー
Uchiumi Park Bungalow

宇検村
UKEN VILLAGE

黒潮の森マングローブパーク
Kuroshio no Mori Mangrove Park

マングローブの森
Mangrove Forest

奄美大島世界遺産センター
Amami-Oshima World Heritage Conservation Center

奄美市
AMAMI CITY (住用町)



マングローブカヌー



モダマの実



フナギョの滝



奄美市の人口
40,501 人
R4 年 10 月 1 日現在
推計人口

奄美市の面積
308,33 km²
R5 年 3 月現在

年間平均気温
21.8 °C
県平均 18.6 °C

年間降水量
2,975 mm
R3 年
県平均 2,266 mm



市職員数
610 人
職員 1 人当り
市民数 65.7 人

世帯数
19,555 世帯
R4 年 10 月 1 日現在
推計人口

平均所得
253 万円
一人当り所得
R1 所得推計

就業者数
19,897 人
R2 国勢調査

事業所数
2,398
H28 経済センサス

▶ 各種データの詳細は
ホームページをご確認
ください。
数字でみる奄美市
(奄美市ホームページ)



参考：令和 4 年度「数字で見る奄美市」より

KAGOSHIMA PREF.



鹿児島県奄美市 市勢要覧2023

令和5年6月発行
編集・発行 奄美市役所 企画調整課
〒894-8555
鹿児島県奄美市名瀬幸町25番8号
TEL:0997-52-1111 FAX:0997-52-1001

▼奄美市ホームページ

